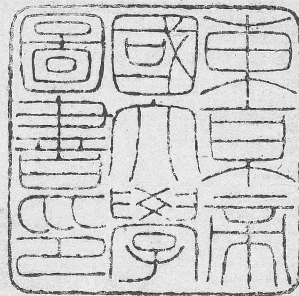


小條五代記 卷六

G 29

G29/  
777



B 34229

小條又代記卷六之目錄

上松輝虎武田信玄小田原へ勸事

娘男と居ても女竹へ乃事

百姓をあげともく事

小條氏康和奇れ事

人多く謡のや吉曲好む事

歌の力とか謡作止事





水滸文代記卷第六

○上杉輝虎武田信玄小田原(働)事

今、まゐり 所、まゐり 又、まゐり 人、まゐり 合、まゐり ひ、まゐり 関東、まゐり 水、まゐり の

いさ物諸を。なりく。ふ沙汰<sup>さた</sup>あり。そ中より

云々。我生國ハ越前ナリ。上牧輝虎ハ越後

一國と稱く。國八州の主なるは條氏康とす。

く代<sup>り</sup>計<sup>り</sup>は付<sup>く</sup>負<sup>は</sup>じ<sup>つ</sup>わ<sup>る</sup>内<sup>に</sup>一<sup>と</sup>年<sup>と</sup>小<sup>こ</sup>田<sup>た</sup>原<sup>はら</sup>迄<sup>まで</sup>

中々、<sup>三</sup>此方なるを教と云へる極強の大物あり

といふ。又一人は甲州の住人なり。武田信玄を甲

張緩河を國とす。成康とす。是也。是也。一年。

小田原へと合遇く時は多く。賊らも少く。然と云  
をひくふ。相摸三橋。相摸三橋。合戦。信玄討つら  
おけの敵と討致さる。氏康武勇。大さな。輝  
虎も。信玄も。小田原へを。氏康。武勇。を。未  
代。妙と。云。安。い。小。條。家。は。此。人。を  
士。下。座。の。所。す。と。お。そ。う。神。つ。り。て。居。り。て。が。  
は。う。と。や。耳。や。か。り。し。ん。中。へ。お。り。て。  
云。々。の。魚。介。人。の。い。ひ。ま。う。お。も。兩。代。の。い。く。さ。  
わ。う。と。や。ど。て。難。ぜ。と。や。ハ。解。事。也。と。れ  
き。い。小。人。氏。康。の。家。へ。も。は。の。軍。は。あ。ひ。さ。り。後。い

上。野。下。野。武。康。下。信。一。若。く。も。若。位。と。氏。康。は。  
を。下。の。ゆ。え。進。長。と。う。そ。輝。虎。信。玄。ふ。う。り。小  
田。原。へ。と。う。と。と。い。ふ。は。れ。う。が。働。と。バ。り。て。沙。汰。せ。ど  
吾。國。に。り。そ。我。独。相。ひ。て。死。な。る。處。と。い。ひ  
か。せ。る。れ。ず。人。武。勇。さ。と。い。ふ。り。進。長。と。う。國  
と。亂。と。は。古。今。の。例。は。由。來。働。と。う。い。ふ。で。氏。康。の  
武。勇。な。り。ん。後。で。甲。が。我。國。の。顯。員。と。大。約。の  
威。光。諸。侍。武。勇。の。も。柄。と。沙。汰。と。う。と。を。方。人。  
跟。と。甲。が。家。あ。る。と。い。ふ。人。の。把。持。と。い。ふ。た。は。し  
を。り。と。れ。た。お。き。わ。り。も。是。也。と。い。ふ。ん。と。氣。は



けさうむるくもそれいふとよふ人とか  
 されば後人よりあかざれぬと古人ありてそれ甲  
 州は武勇より自勝し。廣くとも他國の大ね  
 とわるとして。戦の合戦は切勝たれ。國を切  
 てぬく。利はせり。多くとてたれくわる國を  
 甲斐駿河兩國なり。も介は近國の如く。これ  
 小作と旗本ふかきと計かり。永禄十二年の冬  
 蒲原より藤原三郎在城。小作なれば伝玄  
 のりえぬ。も多し。國寺三枝松と。そのはく  
 開退り。げ二城と。ぬき。ひ柄ふと。とて左後

河國中より長久保。泉頭戸念。志所。流は。に。ヶ。城。を  
 氏康。わ。り。ぬ。又。海。浦。里。に。て。も。多。し。志。所。流  
 氏。康。は。の。浦。多。死。口。置。け。七。ヶ。所。の。浦。里。も。後。に  
 氏。康。の。國。なり。伝。玄。勝。戦。時。代。も。て。は。後。に。河。原  
 と。ぬ。く。と。一。生。流。り。も。計。り。も。く。と。ぬ。れ。り  
 い。ふ。い。ふ。氏。康。も。く。り。わ。る。城。と。や。然。り。伝  
 玄。父。伝。虎。と。通。り。甲。州。を。奪。え。り。戦。國。に  
 も。後。河。原。今。川。氏。康。の。國。なり。と。氏。康。若。將。は  
 て。勝。國。の。源。家。康。は。切。て。く。多。く。他。人。と  
 ら。せ。せ。と。志。かり。氏。康。母。は。伝。玄。が。わ。り。氏。康。は。戦。場

なりと。氏を盡し。武烈へとて。わが國とて。い  
ふ人とは。いふ事。また。夫れ。名。子。と。わ。親。族。を  
我。と。わ。び。ひ。と。う。る。有。益。の。時。力。と。わ。る。を。を  
か。い。よ。その。と。わ。れ。ま。れ。ん。ご。う。也。後。世。の。能。見。と  
と。わ。る。人。び。地。の。わ。さ。り。と。も。と。も。い。ふ。に。み。あ。る。は  
肯。ん。休。歇。し。あ。る。は。惡。逆。せ。る。云。云。云。後  
を。り。我。國。を。押。え。り。柄。と。さ。る。ふ。と。い。た。と。う。骨  
肉。の。うち。惡。子。の。心。と。久。し。ゆ。づ。り。と。い。う。古。く。乃  
云。云。云。乃。び。人。の。時。人。此。人。鬼。畜。其。名。と。い。ふ  
乃。び。い。ふ。ん。後。世。の。君。子。ハ。親。と。す。て。と。い。ふ。

是。の。國。云。云。の。云。云。也。と。い。ふ。乃。子。を。人。ハ。我。親  
我。一。族。と。い。ふ。捨。つ。と。い。ふ。仁。と。い。ふ。寛。喜。の。心。ハ  
い。は。除。武。義。守。泰。時。の。通。倉。の。実。捨。父。武。の。連。人。  
天。下。皆。澄。一。海。の。如。し。然。し。月。中。一。石。越。も。強。勁  
と。い。ふ。除。越。後。守。の。亭。し。歌。打。へ。の。う。い。と。い。ふ。わ  
り。び。人。ハ。武。烈。の。弟。なり。武。烈。評。定。の。府。より。わ  
り。び。い。と。い。ふ。也。一。は。地。は。び。り。り。の。海。に。相。別  
なり。出。は。り。人。と。い。ふ。後。一。は。い。て。驚。と。地。と。い。ふ。終  
戦。列。ハ。地。行。なり。苗。守。居。の。ゆ。え。惡。意。た。と。い。戦  
ひ。対。モ。一。を。事。小。故。也。武。烈。は。由。と。い。ふ。海。次。と









ひやといふ。敬候と者といふ。いせられたり。  
をけり。えきあり。なり。とて。父信虎と士。出。  
諸國と宰。務。を。わ。か。し。め。し。ま。し。ま。ん。  
む。子。息。太。郎。義。信。と。務。を。入。後。宮。と。六。親。  
不。和。中。て。三。室。の。和。議。を。い。ふ。も。忠。切。忠。  
郎。佐。お。と。し。し。誤。り。ま。は。し。例。の。そ。ん。さ。な。り。か。  
あり。首。と。切。事。虫。と。教。と。い。い。と。な。り。  
神。的。の。冥。感。の。宵。に。人。界。の。い。れ。が。う。い。そ。上。  
位。玄。大。儒。正。と。自。名。付。き。る。や。と。ま。き。儒。心。  
号。大。切。の。友。佐。行。基。并。い。ら。し。ま。し。り。思。

か。う。い。う。お。家。の。友。の。の。る。事。は。佛。道。と。二。  
十。年。廿。年。終。り。し。智。得。具。珍。の。ま。り。と。  
て。禁。中。へ。奏。す。と。し。も。功。お。し。る。か。う。い。う。の。德。  
か。く。し。て。高。位。よ。る。と。ハ。友。賊。と。名。付。信。玄。一。  
生。涯。抑。欲。り。と。思。し。遂。に。死。な。せ。た。く。わ。る。  
そ。う。も。終。る。ハ。一。生。は。い。も。な。く。く。と。し。ら。  
と。そ。り。て。も。い。ふ。と。し。と。惡。逆。を。し。り。あ。て。大。  
儒。心。と。し。し。事。城。の。官。職。並。代。表。す。と。し。り。  
叔。父。甲。別。の。義。理。を。あ。く。ま。あ。り。よ。死。す。と。  
お。な。れ。ば。二。是。も。い。ふ。と。君。の。ま。り。と。し。ら。と。

八

一人は勝勢を相摸ハ歌をりといふありと

一人は勝頼と相模へ歌をとりとてたづねると  
 先づ氏政とそのまんとてふいふおとのいふおの  
 ろゝ兄の三郎氣虎と情なくもあはれし顔と面  
 目とやと勝頼よりあひし自害わのけ人きと足  
 て女姓そりといふた勝頼ふふ勝まりと感たり  
 家光も坂を閑とめ給ひふれば十日ひあたり見  
 えと流り主殿とめぬまふ那日すてたてしうが  
 矢ねといふ勝頼は野田のおく天目山へ人たし害  
 せられ給ひぬ。甲州は五日の廣云みだせの物と  
 あり。信玄も甲斐へ打へ給ひて後。甲州より去





如く関八州と治れきり。氏康のまゝに教  
 養の合戦は勝利とうを事。我力にハレむひ  
 とへハ懐大井の冥感よりかみひ。そ上郎はあが  
 忠功よりながゆかりと。わが武勇といひくせり  
 ばふの人として。能ある者。凡とくとともはたべ  
 され。穢は後代の記録にもあらへさる。田原水  
 除家の弓矢なりていまだ関東傳なるあり。屋  
 より數十代おほにうり。湯倉の公方の山被友實  
 殿上松の郎長也。越え右河の云方晴氏云。上松  
 憲政と一味し。天文十三年日月廿日武列河

我の敵よりては氏康と合戦し氏康討勝て云  
 方と上校とも通討し檢威と云をよりし  
 一に園東よりいひ合ふてを治人と成て氏  
 康幕下より居し上校の敵地へ降り来既と輕  
 る方ハ氏康妹年。と上若君亦誕生骨肉同姓  
 の故をよりし。此もがうらうらとて。かて逆意  
 をかざる後と云方よりわづらふるあり。勅いみへの  
 郎延おとわうといひ。氏康は敵討ふふとて。武田  
 も相別羽田道へちがされ。武田の下総より國岡へ  
 流罪せられ世よりくともきづいかり。されば氏康ハ



内膳 御膳所

御膳所

關東諸氏の應とてあつたり知く軍事の時  
既目の成り。多人数とへ共相来と勢とて敵。

あはるの逢乱が来とていなりてむとあつても  
お國と堅固と守護しつたり候はる關東の方と

あはる云方上校の御國と一方と相ひ二方古きと  
わづらふやとも用ひ二人登心とていなりと文とあ

ぐせむ。彼それいなりとていなり信濃上野武蔵下  
野帝陛下總の付た一味。禪虎と大將軍に

永祿三年のよま大軍と引率し相模大坂色あ  
もつて現在家と敵大。一隊と相ひ永祿十一年

乃久。武田信玄駿河へ出陣し今川氏と相ひ氏と  
あはる別然川へあひにやハ駿河の旗とまわれり

いなりこのそむいなり者なる相ひとまわれり  
かいもなれ大僧の友賊とていなりとていなり

大をたれんとていなりとていなり氏と相ひ氏康の年と  
いなりとていなり氏康。氏政父子月十二年正月月中旬。

いなり余瑞と率し駿河へを敵と信玄いなりとていなり  
あはる小田原へ使者とて寺持甫庵へあはる者

を遣とていなり。同十二日二時あはる出合をり。氏と  
不義。信玄失心なり此有謝とていなりとていなり

ありてせそと。首は決まらず。三枚を小張付よりけ  
 らしきなり。氏康、駿河へ打入。信玄、押込。而して之を  
 追討。同十八日、浦系、由井、薩摩山へ入のけり。  
 是より上れなり。信玄、是と見く。具津、清見、多谷  
 人、教と申。そよりいよどきなり。ふと、中より  
 難あり。多く大合戦なり。数日を送り。而して信玄  
 四月廿八日、如陣とて。乃も、八ヶ岳山となり  
 あり。とて。甲州へおびけり。氏康、信玄、おびけり。由  
 里、駿河國中、蒲系、ち國寺、三枚、橋、戸倉、志師、浪  
 泉、たふ保、七ツの城、人教と教と。氏康、父子、小

田原へおびせり。駿河、大良、古流、ち。苗、あす。燈、さ。家  
 氏康、一切、これ。信玄、遠、恨、するべし。とて。而して。信玄、月  
 年、六月、二日、甲州、と打立。駿河、和波、鳴、清、陣、入。氏  
 康、も、駿河へ、お馬、わり、對陣、も。而して、浦系、ち國寺  
 三枚、の二城、ち。お面、とて。信玄、陣、場、へ、入、討  
 一。火、とて。これ、焼、立、て。方、ち。縣、波、とて。い、わ、る。信  
 玄、お、流、さ、敗、軍、と。一、陣、破、も。お、意、金、と。と。お、火  
 して。ち。甲、お、へ、お、び、けり。信玄、八、幡、大、井、と。事、なり  
 とも。と。捨、つ。是、と。拾、ひ。氏康、へ、あ、つ。これ、敵、の、と  
 くれ、は、旗、と。知、さ、る。と。矢、ひ。小、田、原、へ、如、陣、なり。





とわけてもせくら。十月六日乃事なり。相甲のうらひ。三橋門下。信玄人殺を跡とさぬ味方。是と云ふも。小條助五郎。日新太郎。勝一。家。長登。一。す。と。追討。可。か。う。と。云。ふ。多。勢。切。て。か。取。味。方。に。ま。故。中。み。く。難。共。二。三。十。人。討。ま。ぬ。信。玄。小。條。家。と。り。矢。と。ぬ。勝。利。と。ゆ。う。と。二。代。は。是。一。な。り。懸。虎。信。玄。國。東。邊。臣。の。故。傳。と。一。味。一。小。田。多。へ。と。う。く。と。い。ふ。我。一。力。の。も。と。う。さ。乃。極。よ。い。か。せ。り。ば。あ。わ。の。弓。矢。は。項。羽。が。獨

け。み。を。そ。の。む。五。更。の。勇。士。と。さ。う。く。ふ。さ。う。と。こ。と。氏。康。が。う。さ。れ。一。小。條。助。五。郎。と。甲。別。へ。流。人。は。後。と。い。う。腹。と。う。云。葉。よ。と。さ。り。件。乃。助。五。郎。新。太。郎。兄。弟。は。永。祿。七。甲。子。正。月。八。日。高。野。臺。合。戦。し。之。討。小。と。と。云。と。え。る。大。人。也。氏。康。氏。康。一。里。と。あ。う。信。玄。國。を。た。ゆ。く。切。て。ぬ。流。人。と。い。ふ。と。氏。康。國。と。一。信。玄。ぬ。を。る。流。人。と。い。ふ。信。玄。西。上。州。へ。出。馬。せ。り。氏。康。旗。下。乃。ゆ。迷。心。と。く。一。味。と。い。ふ。が。也。勝。利。天。正。五。年。氏。政。旗。下。小。か。ふ。ふ。甲。



五班

別は弓矢よとてとじと。他玄の將軍とてりてて  
 ちと密んとの謀をくべ。わまのふふ小田原町と教  
 大とていふ。軍は天正十八年。サ二年。ひま  
 事也。今にふ十歳よとて。相模小田原の男女迄  
 とてとてく。そと軍とてあがり。國治は民の口を  
 ちて事。川とてちてり。それとてかりとて。虚  
 実とてちて。甲州府屋矢とて。小田原  
 の。ふふのふふ。永禄元年九月十日。信  
 河中将よとて。輝虎とて。信玄合戦あり。語てい  
 く。信玄。麻札の腰とて。居て。輝虎とて。せり。

馬よめく<sup>た</sup>ゆ<sup>た</sup>く<sup>た</sup>二カうつ。信玄かもさうがと。小勇  
をた刀と<sup>た</sup>り。大勇は<sup>た</sup>ち<sup>た</sup>いと<sup>た</sup>なり。小勇は<sup>た</sup>ち<sup>た</sup>の車  
法と<sup>た</sup>く。二カか<sup>た</sup>く<sup>た</sup>。固<sup>た</sup>く<sup>た</sup>。法<sup>た</sup>なり。そ外  
歌<sup>た</sup>よと<sup>た</sup>。ち<sup>た</sup>ハ<sup>た</sup>め<sup>た</sup>く<sup>た</sup>。法<sup>た</sup>なり。後<sup>た</sup>れ<sup>た</sup>も  
う<sup>た</sup>ち<sup>た</sup>ハ<sup>た</sup>。疵<sup>た</sup>。ハ<sup>た</sup>カ<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。さ<sup>た</sup>を<sup>た</sup>。鉄<sup>た</sup>の<sup>た</sup>ち<sup>た</sup>ハ<sup>た</sup>め<sup>た</sup>く<sup>た</sup>  
そ<sup>た</sup>を<sup>た</sup>。ち<sup>た</sup>。帝<sup>た</sup>の<sup>た</sup>ち<sup>た</sup>ハ<sup>た</sup>か<sup>た</sup>く<sup>た</sup>。輝<sup>た</sup>虎<sup>た</sup>い<sup>た</sup>く<sup>た</sup>。一<sup>た</sup>カ<sup>た</sup>  
小<sup>た</sup>打<sup>た</sup>お<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。さ<sup>た</sup>。ち<sup>た</sup>。甲<sup>た</sup>。削<sup>た</sup>。家<sup>た</sup>。首<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。一<sup>た</sup>カ<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。百<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。い<sup>た</sup>ひ。  
十<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。れ<sup>た</sup>。千<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。い<sup>た</sup>。づ<sup>た</sup>の<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。此<sup>た</sup>の<sup>た</sup>。虚<sup>た</sup>。え<sup>た</sup>。わ<sup>た</sup>。け<sup>た</sup>。て<sup>た</sup>。か<sup>た</sup>。ふ  
か<sup>た</sup>。う<sup>た</sup>。と<sup>た</sup>。さ<sup>た</sup>。右<sup>た</sup>の<sup>た</sup>ち<sup>た</sup>ハ<sup>た</sup>。一<sup>た</sup>カ<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。て<sup>た</sup>。案<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。ふ<sup>た</sup>。志<sup>た</sup>。り  
信<sup>た</sup>。玄<sup>た</sup>。う<sup>た</sup>。ち<sup>た</sup>。ハ<sup>た</sup>。一<sup>た</sup>カ<sup>た</sup>。疵<sup>た</sup>。ハ<sup>た</sup>。ケ<sup>た</sup>。あ<sup>た</sup>。ち<sup>た</sup>と<sup>た</sup>。い<sup>た</sup>ひ。て<sup>た</sup>。人<sup>た</sup>の<sup>た</sup>。滅<sup>た</sup>





十

乃小城也。せめ落と事。ぬきとるなり。と。ゆゑと。も。か。

まを討ちたるにむく。園東諸侯。我力の上  
 と用心し。氏康ふんとてへ。人となして入る。  
 雲後の夜と暮し。此仕の上子細多くも。  
 も上はなむ。おれのおれのとりにて。  
 うけり。功のうけり。さをはり。とらり  
 りや。これ科とあつくり。とらひ。とらひ。  
 えせ。おれ。と。た。一。味。の。とも。ぐ。ば  
 し。と。や。それ。え。よく。あ。ご。と。あ。人  
 こ。か。う。園。八。羽。りの。あ。と。流。り。ぬ。然。り。際。

國定方八より款を乞ふ。西より参白せられば又東  
よりも後法をす。相方の合戦を乞ふ。とて  
後法のこと。二心なく。あつた飛を免せしめ  
氏康の深恩を感ず。力命をす。けり。二筋  
小勲功を乞ふ。是より付く。けり。ひ。出せり。治  
美のひ。か。ひ。相方の石橋山。合戦。より。ち  
負房別へ。落し。けり。ひ。島山次郎。全忠。河越  
太即。全忠。江。戸。太即。全忠。長。有。跡。乃。者。氏  
を。弓。と。引。三。浦。太。義。明。と。討。か。る。が。も。後。に。れ  
の。云。通。念。一。打。入。後。乃。右。の。三。人。と。し。め。け。り

乃。背。を。と。ぐ。を。後。乃。成。て。出。る。味。方。小。准。と。る  
者。た。い。と。く。今。先。忠。と。す。と。い。ま。と。ん。ハ。後。法  
を。と。し。め。け。り。と。後。乃。全。忠。免。せ。れ。刑。法  
小。乃。事。十。小。一。と。き。ば。あ。の。者。と。厚。恩。と  
感。ず。後。忠。と。出。る。と。團。と。出。る。大。乃。全。今。と。め。け  
と。團。八。羽。の。氏。士。輝。虎。信。玄。あ。も。と。せ。せ。と。氏。康  
小。乃。ひ。ひ。幕。下。小。屋。一。乃。多。國。と。取。入  
り。治。め。文。武。智。謀。の。名。大。乃。の。か。ま。れ。と。え。め。人  
り。古。後。乃。日。月。の。能。を。ば。人。皆。見。る。あ。つ。た。め。と  
り。の。と。く。め。り。と。ま。る。と。民。み。か。わ。り。と。一。夜





○贅男と雖もめ女うへへの事

中ノ室よりハ條氏並時代ハ小田原よりして毎  
 月二夜に在り前ハ列の按と沙汰せりか

家督合人、伊勢守、大和守、新小幡、山角、上野、  
 儀摩、手松、田尾、張守、同、肥後、山角、上野、  
 月紀、伊勢、侯、賀、伯、督、守、安、南、北、東、  
 江、西、へ、道、お、也、それ、或、日、有、行、成、合、人、  
 か、師、の、ゆ、法、を、な、す、と、事、なり、と、ま、  
 主、場、へ、り、か、つ、つ、ふ、ま、く、や、う、ふ、極、の、  
 ゆ、法、を、ま、く、後、上、加、吉、村、と、い、ふ、里、乃、百、姓、  
 一、人、か、つ、な、と、持、め、く、お、も、れ、血、ま、づ、れ、  
 神、う、く、く、め、く、お、も、れ、い、て、い、女、か、り、男、  
 ま、お、れ、く、も、お、も、れ、女、も、お、も、れ、  
 里



の沙汰。いふ子細あり。わきま。流す所。うへく不  
義なりとつづき。おさき。後。いふ。中。お。雪。入  
道。氏直の右筆  
密利口者也。いふ。へ。極。し。男。や。も。女。の。お。わ。ひ。  
し。い。沙。汰。なり。それ。貞。永。九。年。に。記。し。懸。れ。る。所。  
成。敗。式。目。に。他。人。毒。と。密。懐。と。る。形。料。の。事。而。以  
を。半。分。の。され。お。仕。と。極。め。る。べし。お。常。か。ん  
む。を。流。し。ま。せ。う。懸。べし。女。も。月。飛。と。き。次。に  
道。海。の。過。し。と。い。ふ。女。と。捕。事。由。家。人。と。い。ふ。そ  
を。百。ヶ。日。お。仕。と。や。じ。べし。即。後。い。下。に。お。て  
を。右。大。納。家。の。由。附。お。例。に。ま。を。そ。て。け。る。の。び。ん

後。と。判。除。と。い。ふ。と。き。扱。又。正。應。三。年。の。時。海  
倉。より。い。て。は。な。と。い。ふ。一。ヶ。る。文。の。名。主。百。姓  
未。他。人。の。毒。お。密。懐。と。る。事。折。人。お。わ。る。お。あ  
方。と。る。交。し。後。按。と。め。り。わ。う。う。じ。べし。名。主  
乃。過。料。三。十。貫。文。百。姓。乃。過。料。六。貫。文。女。の  
形。料。同。前。と。い。て。い。ま。は。由。附。代。り。に。他。人。お  
妻。に。密。懐。と。る。者。形。料。一。と。い。ふ。を。さ。る。さ。れ。へ。嫌  
男。お。わ。り。女。お。わ。り。の。沙。汰。に。右。大。納。家。後。代。と。い。ふ  
乃。法。式。中。に。記。さ。る。昔。の。海。あり。お。展。示。と。い  
者。お。わ。り。う。け。い。か。わ。る。名。か。り。に。人。極。め。る。男。お







乃<sup>なり</sup>美<sup>み</sup>和<sup>わ</sup>と。動<sup>うご</sup>くも。言<sup>い</sup>ふも。さ<sup>さ</sup>が<sup>が</sup>ひ<sup>ひ</sup>を<sup>を</sup>内<sup>うち</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>。時<sup>とき</sup>も。

歌教交母わをせきうふ味方あじかたは肩て元もと  
人多おほくし。是この退旦たいたん是このと並ならふとふさふさとゆい會あひ

一〇七  
これをも敵とバ百余人討捕。其首どもを

改政の旗幟<sup>しほ</sup>に<sup>あ</sup>つ<sup>く</sup>る。實檢<sup>じつけん</sup>も。之中<sup>そのうち</sup>に<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>岩井<sup>いわい</sup>の

百姓二人は柄の首とる。その内一人は柄とわたり。

民改むるにありては、ふ尚<sup>ふ</sup>其事<sup>ふ</sup>に<sup>ふ</sup>帝也。百姓

軍中小令傳と相並で首領の事也。之を二公

百姓と氣前より名譽。美祿とあてどくからん

一也。治より重。二人の百姓治より重。系後より重。今







山崎闇斎

二冊八

とてさう乃田畠と永代作れり。と上志井  
乃の肝氣はべき者也。終に百姓と相付仕ふ。小  
栗控に助け敵の取付ふ。前陣より進んで。強  
敵より出む。唯雄と降ひ。猛威とつひ。敵より救  
けられぬ。負せ。主とひ。勝負と受。かき  
下。百姓入。死。助。敵と討れる。摩利  
支天の来現。控に助。武勇のつと。おし。これ  
神明佛。地乃冥。富。一。叶。ふ。人。也。は。百姓ける。を  
者。の。も。柄。と。感。ぜ。る。ふ。ふ。り。て。む。く。討。捕。首  
乃。内。よ。と。て。三。妻。乃。ち。名。こ。ま。判。り。付。く。事。

小栗控に助。軍中。れ。面目。と。な。と。へ。さ。者。也。と。さ。り。  
ね。敵。の。つ。た。乃。討。れ。死。乃。首。戦。場。乃。厚。爲。の。勲。功。  
小。魚。ト。一。口。村。金。浪。と。諸。ゆ。い。効。矣。と。終。事。  
わ。家。て。さ。う。か。

○小除氏康和奇乃事

や。う。を。昔。小。除。氏。康。公。道。昭。は。は。下。ち。山。侍。与。  
守。こ。い。小。老。士。か。り。く。つ。ひ。氏。康。は。父。武。乃。進。人。可。矣。  
と。た。て。國。八。州。は。威。と。つ。ひ。東。西。南。北。は。敵。と。て。  
そ。う。ひ。晝。夜。い。く。さ。評。定。所。ん。と。か。く。寸。断。と。  
え。終。と。さ。れ。た。と。死。の。乃。や。と。内。外。も。和。事。と。

山崎闇斎

二冊九



このまゝに後ひきまり。或時ハ和漢の才人と集め  
或時ハ奇の会わり。氏康百首乃自叙と。京都へ  
よせられ。道遠院殿合点と。なされ。後ひね。或又つ  
る。も。梅よせ。す。と。後ひき。時。も。と。を。へ。  
旅来て。鳴。つ。と。水。前。り。作。と。る。人。と。わ。や。し。と。な。れ。  
ども。慈。南。り。人。か。り。梅。窓。新。と。云。者。り。く。う。へ。ひ。  
り。秋。相。云。信。別。後。日。み。と。う。燈。の。水。物。よ。旅。鳴。て。  
水。と。う。て。死。う。り。ぬ。人。と。も。と。と。う。ん。と。く。矢。ん。  
水。と。ぬ。く。と。り。り。と。も。き。り。さ。ぬ。秋。相。云。水。物。  
上。秋。乃。旅。の。旅。と。し。と。人。友。燈。よ。旅。鳴。と。る。不。  
義。か。り。誰。と。る。奇。と。も。と。と。後。下。され。な。れ。分。若。  
祐。經。取。り。て。滅。し。昨日。の。水。物。よ。と。い。て。旅。系。派。  
太。氣。季。う。奇。か。は。鳴。神。も。う。で。と。ぬ。と。れ。ひ。  
ぬ。是。か。も。あ。わ。つ。ら。う。り。か。る。ま。い。誰。く。も。む。  
り。な。れ。た。と。む。人。か。り。り。よ。武。蔵。乃。困。れ。住。人。  
宅。甲。三。郎。季。隆。が。む。け。を。う。ふ。か。り。う。づ。う。  
又。見。と。り。が。屋。が。く。

秋。乃。か。く。は。う。う。く。せ。し。と。鳴。人。さ。お。わ。さ。  
ま。い。と。り。あ。ひ。秋。旅。う。那。こ。り。な。れ。は。最。少。り。  
な。く。神。妙。よ。り。な。り。滅。し。旅。よ。お。か。せ。と。



三

萬惡山八幡宮造主氏康、六月十一壬寅年卯月十  
 二日、由井の濱の大島井と立田親おきくせ平遍  
 陀羅尼と七日とておひあ。彼表よりきて一切経  
 持讀之例におろけり。布教おもくつ目録わ  
 かゝるうか。とも大島井天正年中、中々ん  
 る。今ハそしてかり。氏康くくるる家運とち  
 里流ひね上は義あるが下あへてりて服せむと  
 不事なり。諸乃力令と君りかびうち患と  
 ついさんとしとされば仁義礼智信の五ツの名を  
 とといふた。もと一なるは抑まり。君りして、い方民

とわひて。臣の君よりくは父うて、父子を憐れ  
 子に親しき心を過す。おれ我よりよきドナリを  
 ひつぎくもくも。是みか智仁勇の内なり。若く  
 合神とれば、國家安泰なり。そ上氏康は他國よ  
 り來りてをわまひく牧物。然るても職の者  
 とば。應勤せられ奉り。憂國は賊と云ふと  
 せば。吾と云ふと。いとむと云ふ。珠玉と宝とする  
 者あり。むと。むと。むと。賢人内  
 おろと云ふ。おろと云ふ。おろと云ふ。賢人内  
 を賢人外よりけり。おろと云ふ。おろと云ふ。おろと云ふ。



乃ハ他國より多くもは隙蒙らんをせし法國より  
 里小田原へ來んとて人を以て對しよとて全勢あり  
 石居らねと國々の弓矢のてきてとめざる者あり  
 少くは給ひたりなり諸國の大將の弓矢を  
 てきて車法をもよく知く戦場にもよくな  
 きてこの行に對して智謀武略をよくし  
 勝利をとるが國を全く守護し給へり是れ人  
 なる夏の築山公なりて君臣の礼とうとな  
 おね又殷の湯王は賢人となりてめざらんことを  
 やしてふたりの里にとどまりてゑといふなりなり

諸作も夏を肖す。百姓を得て湯に浴び終るは  
湯王夏の樂と代て天下を治め治ひぬされば小田  
取より小蓋衣懷广守伊勢使中身大和彦二郎是  
之後兵部少輔と改名し。げ三人の氣が云方振り  
けふ此地東の後園東へ下向。牽人分りて小田系は  
堪忍なり。仁義の道なるを弓法と名づる也。氏康  
此自覺する所なり。當りよれ一の宿。氏康  
控軍陣として。諸伯いくさの行かん付。己  
の兵法是なり。よくよく其の賊上下をえくべし。  
雅系となくかむどあてざるせわ。斯う上へ

三十三 諸侯武略と云ふは。軍中ふくまへて。  
 なるべきを。そとくわきまを。これより。云ふこと。を。なす。  
 する。所。を。利。と。いふ。こと。を。わきま。を。或。を。助。ふ。る。  
 けり。ひ。或。は。或。と。あ。へ。活。ひ。ぬ。是。より。て。又。も。云。ふ。  
 一の。も。ん。と。い。ひ。ふ。ま。ま。で。も。其。法。と。云。ふ。こと。を。或。は。  
 力。人。を。材。軍。法。と。あ。や。て。り。馬。の。力。と。日。新。は。海。  
 へ。び。と。力。く。の。水。計。勝。利。と。ん。事。と。い。ふ。こと。と。  
 也。成。康。と。い。ふ。我。い。く。と。奥。と。い。ふ。と。い。ふ。こと。と。  
 者。よ。ね。法。と。い。ふ。三人。の。時。か。か。り。と。三人。の。ふ。く。り。は。  
 とも。い。へ。ね。法。の。合。戦。は。利。と。え。り。と。い。ふ。こと。と。別。と。

云。く。し。即。後。と。い。ふ。事。は。ひ。ぬ。ぐ。る。こと。と。他。國。と。  
 内。も。と。も。小。條。家。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。  
 代。と。い。ふ。こと。と。國。八。州。釋。法。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。

○人として徳のやうき事曲と好む事

云。く。今。も。い。ふ。こと。も。賤。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。  
 云。く。上。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。  
 云。く。わ。り。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。  
 云。く。み。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。  
 云。く。代。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。  
 云。く。諸。人。親。世。と。い。ふ。こと。と。い。ふ。事。と。い。ふ。事。と。

思ふに共々と云者ぞれが一氣に事なり  
御我人云々といひ日こそ方更に親世たる  
まゝなり後よりいふと云うまゝに  
これよりいふ事なりされば後と云ふ  
水ももの親世がと云ふいふ人よりか  
いといふとおひひやより後王賜  
屋と一敷うひをりされどもいふ  
や一つもなり。是といふやと云ふ  
お二敷目よりを子息二十郎。忠  
ひをりいふ勢もいふやと云ふなり

ねりろくいひいふはさうなり  
哉。今一番やまやとゆひいふ  
凡といふいひやいふなり  
やえども。おひひをりまゝに道と  
いふはさうなり。いふはさうなり  
ねがをいふいふはさうなり  
やと云ふなり。耳と云ふなり  
いふはさうなり。いふはさうなり  
曲といふなり。いふはさうなり  
下といふなり。いふはさうなり











九

五



竹のぶき憂ふ。若しとて此とがさうなまひ  
あり。是よりいふなまひと天下の名人と。p  
所へ入る。儒祖可が詩よ

琴<sup>こと</sup>ひそん<sup>ひそん</sup>はつ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>々<sup>々</sup>者<sup>もの</sup>まれ<sup>まれ</sup>なり。百<sup>ひゃく</sup>今<sup>こん</sup>そ<sup>そ</sup>  
 一<sup>いち</sup>鐘<sup>かね</sup>朝<sup>あさ</sup>なり。く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>び<sup>び</sup>う<sup>う</sup>。陽<sup>やう</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>曲<sup>きょく</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>  
 さ<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>。月<sup>つき</sup>さ<sup>さ</sup>よ<sup>よ</sup>か<sup>か</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>ち<sup>ち</sup>て<sup>て</sup>。摘<sup>ゆび</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>さ<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>  
 そ<sup>そ</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>作<sup>さく</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>。琴<sup>こと</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>さ<sup>さ</sup>。琴<sup>こと</sup>と<sup>と</sup>々<sup>々</sup>者<sup>もの</sup>に<sup>に</sup>か<sup>か</sup>た<sup>た</sup>れ<sup>れ</sup>な<sup>な</sup>  
 玉<sup>たま</sup>振<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>。か<sup>か</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>む<sup>む</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>。伯<sup>はく</sup>牙<sup>が</sup>が<sup>が</sup>  
 琴<sup>こと</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>成<sup>なり</sup>さ<sup>さ</sup>知<sup>し</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>も<sup>も</sup>。鐘<sup>かね</sup>朝<sup>あさ</sup>一<sup>いち</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>も<sup>も</sup>也<sup>なり</sup>。陽<sup>やう</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>  
 曲<sup>きょく</sup>の<sup>の</sup>奇<sup>き</sup>の<sup>の</sup>振<sup>ふ</sup>位<sup>い</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>か<sup>か</sup>へ<sup>へ</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>。遠<sup>とほ</sup>き<sup>き</sup>な<sup>な</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>お<sup>お</sup>











とむらん。然り。隣國の歌。信玄入道。天正元年。辛酉。年。玄一。常陸の義重。安房の義頼。和族。一月。又。年。の。亥。水田。所。人。と。改。甲。別。勝。頼。之。同。又。年。旗。下。り。なり。と。上。氏。政。の。跡。年。と。なり。越。後。ハ。氏。政。全。才。三。郎。輝。虎。の。養。子。と。成。て。上。杉。三。郎。有。景。虎。と。改。名。り。家。督。と。次。國。東。ふ。む。ひ。孫。と。事。な。り。是。より。て。越。後。と。相。換。一。味。魚。物。多。く。同。來。六。年。ハ。信。玄。返。治。り。て。輝。虎。を。東。山。道。氏。政。ハ。東。海。乃。お。旗。と。り。と。

京都へ攻上り。信玄とて討し。義共とをを佛法。王法乃衰と。か。天下乃改と。なり。挑り。ん。年。ふ。い。たり。と。な。なる。不。同。六。年。乃。玄。輝。虎。以。死。と。げ。良。り。と。む。と。長。尾。氣。勝。源。勝。頼。と。一。味。一。二。郎。氣。虎。と。七。と。改。越。後。甲。別。敵。を。り。人。氏。政。上。海。延。引。と。勝。頼。氏。改。と。父。子。乃。契。縁。り。と。大。敵。心。内。と。わ。ま。さ。バ。骨。肉。も。敵。と。か。り。世。の。と。り。と。之。と。一。然。ハ。水。際。と。な。り。一。勝。頼。ハ。信。玄。と。モ。さ。れ。信。玄。ハ。家。人。乃。智。目。向。ち。と。討。と。

日向守の傍家乃羽柴流花も小珠せられ  
伝もと返活せんとおもとをけり。小除家の  
秀吉公乃きあふかろび。是皆あひのかうが  
たさるて。滅亡し流ひぬと。され流りたれは  
むくすて。それ素業の強う。それ人とう  
かへい。またそれと害も世と生涯。若しえ  
の海う。それづて。ははの舟橋と。けりも  
せぬど。かろ。こと。皆人毎の口と。あともわろ  
なれた。も。けり。さ。人。あ。けり。けり。けり。  
まへ。それ。けり。も。熱。一生。い。あ。また。けり。い。あ。

も。是。貪。嗔。癡。乃。二。毒。れ。病。ど。り。さ。か。ゆ。へ。り。  
出。離。生。死。と。も。あ。れ。け。り。け。り。病。ハ。脊。腰。痛。  
病。ハ。療。治。も。も。あ。れ。け。り。け。り。諸。苦。も。も。あ。れ。け。り。貪。  
欲。病。ハ。と。死。も。も。あ。れ。け。り。け。り。一切。の。惡。業。の。源。ハ。貪。欲。  
と。も。あ。れ。け。り。け。り。和。て。力。と。害。も。摩。訶。止。經。り。  
と。も。あ。れ。け。り。け。り。独。り。誰。が。是。れ。と。も。あ。れ。け。り。け。り。  
わ。り。ゆ。り。あ。り。賊。室。の。う。り。ふ。地。の。た。め。ふ。る。と。も。あ。れ。け。り。け。り。  
釈。迦。ハ。十。善。の。位。と。も。あ。れ。け。り。け。り。榮。光。ハ。か。ろ。り。け。り。け。り。  
な。る。と。も。あ。れ。け。り。け。り。死。と。も。あ。れ。け。り。け。り。さ。事。を  
歎。る。王。位。と。も。あ。れ。け。り。け。り。十九。年。と。も。あ。れ。け。り。け。り。誰。独。だ。ん。と。



せんは今年十二年の月。難行苦行の功候り。十二月廿  
乃曉明星現む。時諸法実相の理と悟る。衆生の  
苦と難き。三世まう。うらの仏と成て。三界衆生を  
導師と成。法ひる手と成て。衆生と抱め。天下の武  
と成て。衆ひよ。あつ。も。惟。愛。幻。の。り。色。力。法。心。  
か。と。あ。つ。て。別。は。法。う。今。人。衆。の。す。る。者。は。金  
乃。山。上。へ。あ。つ。る。う。う。う。う。と。を。う。て。三。途。の。右。へ。入。り  
事。あ。つ。る。衆。の。衆。衆。う。ま。う。迷。う。生。死。の。大。海。と。衆。  
涅槃の衆。う。衆。ん。も。衆。う。事。あ。つ。る。と。う。り

小條又代記卷六終



